

『自然や人々とふれ合おう』宿泊学習in俵山

山口県長門市立向津具小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数： 6学級(内特別支援学級1学級)
- 児童数： 44人
- 教職員数： 10人
- 活動の対象学年： 4・5・6年生 18人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 山口県の最西北端に位置しており、農業と漁業の盛んな地域である。校区内の人口は約1500人で、三世代の家庭も多いが、近年の人口流出に加え、少子高齢化が進んでいる。
- 三世代交流の活動(田植え、稲刈り、餅つき)や魚料理教室などを通して地域との結び付きを深めている。
- 自然に恵まれてはいるが、活動的な遊びをする児童が少なくなっている。同学年は、保育園からほぼ同じメンバーで、人間関係が固定化している。また、子ども会やスポーツ少年団の活動がないために、他の地域の児童とふれ合う機会がほとんどない。

③ 連絡先

- 〒759-4623
山口県長門市油谷向津具下2871
- 電話：0837-34-0002
- FAX：0837-34-0022
- 電子メール mukatsukusho@hot-cha.tv

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 農山村での自然体験や地域の人々との交流を通して、自律心や社会性を育てる。
- 民泊先での生活体験を通して、進んで働く心や感謝する心を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 入村式(学校行事 1/3単位時間)
- 歌舞伎体験【体験プログラム①】
(総合的な学習の時間 2単位時間)
- 対面式(学校行事 1/3単位時間)
- 湯町ウォークラリー【体験プログラム②】
(総合的な学習の時間 3単位時間)
- 農作業体験【体験プログラム③】
(総合的な学習の時間 2単位時間)
- しおり作り【体験プログラム④】
(総合的な学習の時間 2単位時間)
- そば打ち・豆腐作り【体験プログラム⑤】
(総合的な学習の時間 3単位時間)
- 川遊び・魚釣り【体験プログラム⑥】
(学校行事の時間 4単位時間)
- 山登り(能満寺山)【体験プログラム⑦】
(学校行事の時間 3単位時間)
- 退村式(学校行事 1/3単位時間)
- 宿泊先 山口県長門市俵山地区の民家
(6家庭)3泊

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 農山村での体験活動を通して、自律心や協力する心を育てる。
- ② 地域の人々とのふれ合いを通して、人との接し方を学ばせるとともに、進んでコミュニケーションを取ろうとする態度を育てる。
- ③ 民泊先での生活体験を通して、家庭の温かさや家族の大切さを感じさせるとともに、進んで働く心や感謝する心を育てる。

(2) 全体の指導計画 (全30単位時間)

活動時期・期間	実施する体験活動の概要	教科・領域	単位時間
7月中旬	『自然や人々とふれ合おう』事前学習 ・日程の確認 ・班編成 ・めあての設定 ・役割の決定 ・しおり作成 ・班会議	特別活動	5単位時間
7月26日 ～7月29日	『自然や人々とふれ合おう』宿泊学習in俵山 ①歌舞伎体験 ②湯町ウォークラリー ③農作業体験(うねづくり、そば・ごぼう・大根等の種まき) ④葉っぱを使ったしおりづくり ⑤そば打ち体験・豆腐作り(選択) ⑥川遊び(魚釣り・河川プール) ⑦山登り(能満寺山) ※入村式・対面式・退村式	総合的な学習の時間 学校行事	[20単位時間] 2単位時間 3単位時間 2単位時間 2単位時間 3単位時間 4単位時間 3単位時間 1単位時間
8月	・お礼の手紙を書く。(夏季休業中)	—	—
9月上旬	『自然や人々とふれ合おう』事後学習 ・ホストファミリーに手紙を書こう (学校生活の様子を知らせよう) ・作文「体験活動から学んだこと」	国語	5単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

① 班編成について

異学年の集団(4・5・6年)であるので、6年生をリーダーとし、学年や男女のバランスを考えながら、児童一人ひとりの能力や性格を考慮して班編成を行った。

② めあての設定について

活動のねらいを受けて、4つの具体的なめあて(共通)と自分のめあてを設定した。

時間・・・・・・決められた時間の5分前に集合することができる。

片づけ・・・・・・使ったものは自分で片づけ、きれいに掃除する。

あいさつ・お礼・・・・さわやかなあいさつ、気持ちのよいお礼が言える。

交流・・・・・・俵山小の友達やお世話になる人たちと笑顔で交流することができる。

自分のめあて・・・・自分でめあてを考えて設定する。(例:俵山小の友達を3人以上作る。)

これらのめあては、宿泊学習のしおりに記載し、達成できたかどうか毎日チェックすることができるようにした。

③ 不安の解消について

児童及び保護者にとって一番の不安は、民泊をすることであった。本校では、毎年4～6年生を対象に宿泊学習を行っているが、特に4年生は、初めての宿泊学習が民泊ということで、大きな不安を感じていた。そこで、6月に保護者対象の説明会を開催し、受入先の「ゆうゆうグリーン俵山」から活動内容や安全対策等の説明をしていただいた。また、事前にホストファミリーから児童宛に手紙をいただき、どのような思いで向津具小の児童を迎えようとしているのかを知ることができた。これらのことで、児童や保護者の不安はかなり解消された。

(2) 活動の展開 (プログラム) ※プログラム①～⑦の活動は、全て俵山小学校児童との交流活動

7月26日 (月)		7月27日 (火)		7月28日 (水)		7月29日 (木)	
8:00	JA向津具集合	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食
9:00	JA向津具出発	8:30	集合 (畠山駅)	8:30	集合 (畠山駅)	8:30	集合 (畠山駅)
9:50	俵山到着	9:00	【プログラム③】 農作業体験 (俵山中学校農場) ・うねづくり ・野菜の種まき ・道具の片づけ	9:00	【プログラム⑤】 そば打ち体験 豆腐作り ・どちらかを選択 (畠山駅)	9:00	【プログラム⑦】 山登り (能満寺山) ・能満寺の住職 さんの話 ・ポイントでク イズに答える
10:00	入村式 【プログラム①】	12:00	昼食 (畠山駅)	12:00	昼食 (畠山駅) ・手作りのそばと 豆腐を食べる	11:30	俵山小の歌舞伎 を鑑賞 (俵山小)
10:30	歌舞伎体験 (俵山小体育館)	13:00	【プログラム④】 しおりづくり (畠山駅) ・森林についての話 ・葉っぱを使っ てのしおりづくり	13:00	【プログラム⑥】 川遊び ・魚釣り ・魚の観察会 ・河川プール	12:00	昼食 (畠山駅) 退村式
12:00	昼食 (畠山駅)	17:00	民泊先に移動	17:00	民泊先に移動	13:30	俵山出発
13:00	【プログラム②】 湯町ウォークラリー ・班活動 (7班)					14:00	向津具到着
17:00	対面式 ・民泊先の方と対面 民泊先に移動						
							
							
							
							
21:00	1日の振り返り	21:00	1日の振り返り	21:00	1日の振り返り		
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝		

・夕食、入浴の時間は民泊先によって異なる。
・夕食の準備や片づけの手伝いをする。
・民泊先で活動を行う。
(スイカ割り・魚釣り・温泉等)

(3) 事後指導

① 手紙や作文を書く

ホストファミリーへの「お礼の手紙」や「体験活動から学んだこと」を作文に書くことによって、活動を振り返るとともに自分の変容を自覚させ、今後の生活に生かすように働きかけた。

② 学んだことを学校生活に生かす

活動のねらい (自律心・協力する心・礼儀・感謝する心等の育成) を意識させ、学習や学校行事など様々な活動を通して、常に振り返る機会を設定した。機会をとらえて考えさせることで、少しずつではあるが自律心や協力する心などの面で児童に変容が見られるようになった。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

- ① 学校の体制・・・校長、教頭、教諭3名（4年～6年担任）、養護教諭 計6名
- ② 指導者・・・ゆうゆうグリーン俵山(俵山グリーンツーリズム推進協議会)スタッフ
長門市立向津具小学校教職員 長門市立俵山小学校教職員

(2) 配慮事項

- ① 事前の健康調査をもとに、児童一人ひとりの健康状況を民泊先に伝えた。
- ② 現地下見や受入地域担当者との事前協議により、受入体制や安全面の確認を詳細に行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- ① 宿泊学習のしおりを活用し、活動ごとに自己評価をさせ次の活動に活かしていくように指導した。
- ② ホストファミリーへのお礼の手紙や活動を振り返る作文から児童の成長をとらえた。
- ③ 事前と事後に児童の意識調査を実施し、その分析結果を事後の活動に生かすようにした。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- ① 実施後のアンケートでは、全員が「楽しかったのでもう一度行きたい」と答えており、子どもたちにとっては、充実した4日間であった。特に、実施前は不安であった民泊が一番の思い出となっており、いつも気心の知れた人々の中で生活している児童にとって、礼儀を意識することや他人から感じる心の温かさは新しい経験であった。

また、俵山小学校の児童から教わりながら体験した歌舞伎や一緒に地域を探索したウォークラリーは、今まで知らなかった日本の伝統文化に出合えたことや新しい友達ができたことにおいて、大きな価値のある活動であったといえる。

俵山地域の人々とのふれ合いの中から感じたことや学んだことは、子どもたち一人ひとりにとって大きな財産となって今後の生活に活かされることが期待される。

- ② 事前と事後に行った意識調査によると、「自分から進んで何でもやる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」の項目において高まりが見られた。

学校生活においても、一部の児童ではあるが、自主性や責任感が行動となって表れてきた。

(2) 課題

- ① 俵山小児童との交流で新しい友達ができしたが、その後の交流が手紙のやりとり等にとどまっている。今後どう発展させていくか考えていく必要がある。
- ② 俵山における活動内容を考えると、いろいろな農作業体験(特に収穫体験)が充実している秋の方がよいのではないかという意見が出た。どんな体験をさせてどんな心を育てたいのかを考えて、活動時期を選択する必要がある。
- ③ 体験活動中は意識していたためあて(時間・片づけ・あいさつ等)が、学校生活の中でも常に意

…この宿泊学習で特に心にのこったことが二つあります。

一つ目は、かぶき体験です。ほくは、かぶきを初めて見ました。動きやせりふが難しそうでしたが、がんばって挑戦してみました。やっぱり難しかったですが、よい体験になりました。

二つ目は、ホストファミリーの方とのふれ合いです。ほくたちを温かく迎えてくださって、4日間安心して楽しく過ごすことができました。花火をしたのが思い出に残っています。

この他にも日ごろできない体験をたくさんすることができ、じゅうじつした4日間でした。また、活動の中で、時間を守ることや声をかけ合うことの大切さを学びました。…

《 児童の作文より ※一部抜粋 》

識して行動できるように、いろいろな機会をとらえて振り返りをさせながら、継続的に指導をする必要がある。